

Sumitomo Foundation News Vol.22

基礎科学研究助成内容を改定します

住友財団の基礎科学研究助成は、財団創設から30年余りに亘って基本的な内容を変更することなく継続してまいりました。しかしながら、財団や研究者を取り巻く環境や応募状況が大きく変化する中で、より良い助成とすべく、2025年度より以下の通り内容の変更を行います。

1. 応募可能な年齢を45歳以下とします

設立当初より、対象は「若手」としていましたが、年々応募者の平均年齢は上昇していました。「若手研究者」による「独創的で萌芽的な研究」を支援するという財団の目的に立ち返り、年齢制限を明確にするものです。

2. 分野別に募集し、各分野毎の助成金額を均等化します

学問にも流行り廃りがあり、最近では生物学関連の応募が全体のおおよそ半数を占めています。財団では、応募数に概ね比例して助成金額を配分してきましたが、「基礎研究」を支援する、という財団の目的に立ち返り、各分野毎の助成金額を均等化することといたします。但し、数学に関しては、実験器具等の購入費用が高む他の分野対比比較的研究費が少なく済む、という実態に合わせて、少なめの配分とする予定です。

3. 助成金額の減額査定は行わず、原則申請金額通りの助成を実施します

募集要項では、1件当たりの助成金額は最大5百万円と謳いながら、助成金総額が限られていることもあり、高額申請を中心に減額査定が行われ、実際には平均2百万円弱の助成しかできませんでした。この為、せっかく採択されても、助成金額が減額されることで、研究計画の縮小変更を余儀なくされるケースが少なくありませんでした。少なくとも採択者には、計画通りの研究ができるように、また、100～200万円ではなく、500万円をきちんと助成することで、ある程度しっかりした研究をしてもらいたい、という意図があります。

減額査定を行わないことにより助成件数の大幅減少が避けられないため、助成金総額は1億5千万円から5千万円増やし、2億円とする予定です。

【主な改定点】

	現状	改定後
対象年齢	若手	45歳以下
応募時の分野選択	分野選択は不要	数学、化学、物理学、生物学の4分野から選択
分野毎の助成金額	概ね応募数に比例して配分	各分野に均等配分(除く数学)
助成金額	減額査定がほとんど	申請金額通り(減額査定せず)
助成金総額	1億5千万円	2億円

主な活動内容(2024年11月～2025年1月)

10月	国内外文化財維持・修復事業助成 ならびに 修復文化財展示事業助成 募集(～11月) アジア諸国における日本関連研究助成 選考・専門委員打合せ実施
12月	国内外文化財維持・修復事業助成 ならびに 修復文化財展示事業助成 第一回選考委員会開催
1月	資産運用委員会開催 国内外文化財維持・修復事業助成 ならびに 修復文化財展示事業助成 第二回選考委員会開催 アジア諸国における日本関連研究助成 選考委員会開催

修復文化財の展示(1)

住友財団では、文化財維持・修復事業助成と併せて修復文化財の展示公開の機会拡大に取り組んでいます。これまで「その他助成」の枠で行ってきた展示助成を引き継ぐ形で、新たな助成プログラムとして「修復文化財展示事業助成」(応募期間2024年10月から11月末)をスタートさせ、財団が主体となって修復文化財の展示を行う取り組みも、泉屋博古館との共催で、2025年4月開催に向けて準備を進めているところです。

これらの取り組みによって、修復文化財の展示公開の機会が拡大し、文化財の修復に対する関心も高まっていくことを期待しています。ここでは、2024年度における修復文化財の展示に関わるトピックスをご紹介します。

1. 住友財団の助成による展覧会の開催

以下に紹介する2つの展覧会は、いずれも地元の文化財を地元で展示公開することで、その地域の歴史や文化に改めて関心をもってもらう目的で企画されたものですが、修復文化財への展示助成があることで、文化財の修復にもスポットが当てられ、展覧会の一つの目玉になりました。新設された「修復文化財展示事業助成」もこのような形で活用いただければと考えています。

(1)和歌山市立博物館令和六年度特別展 (2024年10月5日～11月24日)

和歌の聖地・和歌の浦誕生千三百年記念「聖武天皇と紀伊国一旅するひと、もの一」をテーマに集められた多くの作品の中に、複数の近年修理された文化財があり、修理にもスポットが当てられた展覧会になりました。

修復文化財の展示場所には、修理工程等を解説したパネル(写真右)が設置され、「文化財をまもり・つたえること」をテーマにした公開シンポジウム(写真左)も開催されました。

*展示された住友財団助成の修復文化財:絹本着色 釈迦三尊像(総持寺所蔵)<重要文化財>

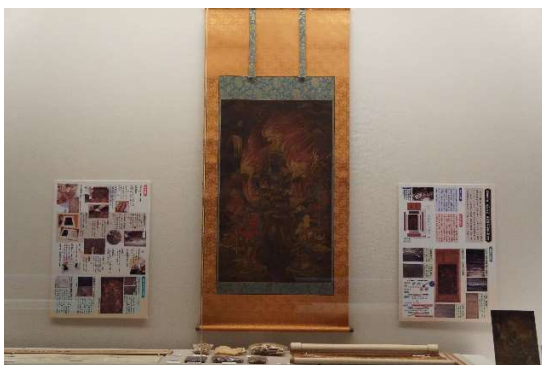


(2)観峰館令和6年度特別企画展 (2024年9月21日～11月24日)

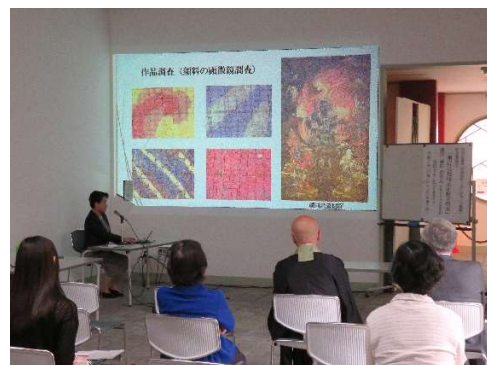
観峰館は滋賀県東近江市にある、公益財団法人日本習字教育財団が運営する博物館で、「書の文化にふれる博物館」として知られています。この特別企画展では、「近江ゆかりの書画—古写経から近代の書まで—」をテーマに作品が集められ、その一つの目玉企画として住友財団助成の修復文化財にスポットが当てられました。

修復文化財には、修理工程等を写真解説したパネルや修復前の旧表装や旧肌裏紙等が並べて展示されたほか、図録に修理の解説ページが設けられました。また、修復文化財の修復業者による記念講演会も開催されました。

*展示された住友財団助成の修復文化財:絹本着色 不動明王三童子像(乾徳寺所蔵)<東近江市指定文化財>



修復文化財の展示状況



記念講演会像

修復文化財の展示(2)

2. 修復文化財の所有者による展示公開イベントへの参加

名古屋大学ホームカミングデー附属図書館企画「文化財をまもり、つたえる」が、2024年10月19日に開催されました。住友財団が修復助成を行っている交代寄合西高木家関係資料(名古屋大学所蔵)が展示され、特別講演会も行われるということで、財団からも参加させていただきました。

重要文化財である交代寄合西高木家関係資料は、2024年から第2期3カ年計画の修復に入っていますが、今回のイベントでは、第1期の修復事業を終えた資料の一部が展示されました。附属図書館の建物内にある展示会場の「OKB大垣共立銀行高木家文書資料館」では同文書の複製を常設展示していますが、この日は修復を終えた原本が、修復前の状態の同寸大の写真と並べて展示され、修復の前後による違いがよくわかる工夫がされていました。修理技師による解説動画が繰り返し上映されるコーナーも設けられ、特別講演会では、一般社団法人国宝修理装飾師連盟代表理事の山本記子氏が「国宝・重要文化財の保存と修理」をテーマに講演されました。所有者である大学が企画した修復文化財の展示公開イベントで、1日限りの実施ではありましたが、非常に充実した内容になっており、財団に関わる修復文化財展示でも参考にさせていただきたい気づきが多くありました。



OKB大垣共立銀行高木家文書資料館内



特別講演会

3. 泉屋博古館との共催による修復文化財の展覧会準備

現在、以下のとおり準備を進めています。

- 展覧会名 住友財団助成による文化財修復成果—文化財よ、永遠に 2025 (同時開催 ライトアップ木島櫻谷Ⅱ)
- 開催期間 2025年4月5日～5月18日
- 展示会場 泉屋博古館東京
- 展示作品 狩野山雪筆「歴聖大儒像」(筑波大学附属図書館所蔵)
絹本着色 十一面観音菩薩像(ケルン東洋美術館所蔵)
- 見どころ ①歴聖大儒像は、江戸時代に湯島聖堂での儒教の祭儀で実際に使用された現物です。全21幅のうち6幅を筑波大学附属図書館が所蔵しており、2019年から3カ年計画で修復がなされました。筑波大学以外では、東京国立博物館を除いてほとんど出陳されることのない作品であり、今回は修復後の現物を見られる貴重な機会となります。
②十一面観音菩薩像は、南北朝時代の作と考えられていますが、現在はケルン東洋美術館が所蔵しており、2022年から日本で修復が行われました。今回、修復後初の公開で、ケルンに返納される前に日本で原物を見られる貴重な機会となります。
③展示会場では、それぞれの修復内容や修復の過程がパネル解説されます。また、絵画の裏打ちを体験できるワークショップや展示作品にかかわる講演会等のラーニングプログラムも企画しています。



十一面観音菩薩像

JDF(日本障害フォーラム)に対する助成

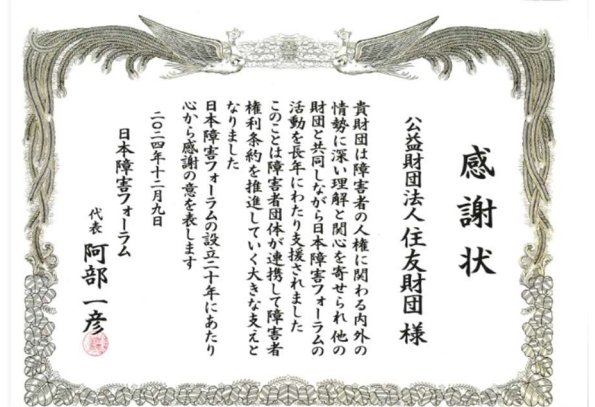
日本障害フォーラム(JDF)は、2004年に日本の障害者施策を推進すると共に、障害のある人の権利を推進することを目的に、各障害者団体を中心に設立されたものです。

住友財団は、障害者権利条約が批准された2014年から、主にその普及啓発活動を支援する目的で助成を続けてきました。助成総額は、900万円に達しています。

昨年12月に、JDFの設立20周年を記念して全国フォーラムが開催されましたが、その中で、支援を続けてきた他の財団と並んで感謝状をいただきました。本件助成は、他の財団と協調して助成を実施したもので、財団助成におけるひとつのモデルケースでもありました。また、住友財団としては、現在行っている6つのプログラムには含まれていませんが、将来的には、福祉・教育の分野にもその対象を広げていくことは選択肢のひとつとして検討したいと思っております。

住友財団による助成実績

助成年度	金額	内容
2014	150万円	障害者権利条約批准後の普及啓発活動
2016	150万円	障害者権利条約批准後の普及啓発活動
2017	100万円	日本障害フォーラム(JDF)に対する助成
2019 -2022	100万円 ×4回	日本障害フォーラム(JDF)に対する助成



アジア諸国における日本関連研究助成

2024年度の応募は昨年10月末に締め切りました。応募数は891件(前年比38件増)、応募金額は約13億200万円(同1億900万円増)と何れも過去最高となりました。国別ではマレーシアから449件(同23件増)、インドネシアから155件(同99件減)とで全体の2/3を占め、中国73件(同35件増)、タイ57件(同26件増)と続きます。

インドネシアが大きく減少した一方で、ここ数年、東アジア(中国・韓国・台湾)からの申請が振るいませんでしたが、オンラインでの募集勧奨を進め、東アジアが大幅増加、今年度は前年比で倍増となりコロナ禍前のレベルにまで回復しました。計14名の専門委員による一次審査を通過した申請を、現在2名の選考委員が最終審査を進めており、3月の理事会にて助成対象が最終決定される予定です。

